

## ミャンマーの国内情勢を憂う（談話）

本年 2 月 1 日に発生した、ミャンマーにおける国軍の軍事的な国家制圧による様々な事態について、私たち全日本仏教会はたいへん憂慮しております。

「すべての者は暴力におびえる。すべての(生きもの)にとって生命は愛しい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ」

（中村元訳『ブッダの真理のことば 感興のことば』岩波文庫 1978 年）

仏陀は「いのち」の尊厳をこの様に語られています。

武力による制圧は、死と悲しみと恨みを生むだけで何も解決せず、平和な生活を生み出すことはありません。

仏陀の「和」の精神を基調とし、世界平和の進展に寄与する本会は、ミャンマー国民の誰もが希求する、人権の尊重といのちの尊厳が守られる、平和で民主的な社会が築かれることを強く望んでおります。国軍は市民に対する武力行使を早急に停止し、すべての人々に一日も早く安寧な生活が訪れますよう切に願っております。

2021（令和 3）年 3 月 15 日

公益財団法人 全日本仏教会  
理事長 戸 松 義 晴